

米沢市新水道事業ビジョン（中間見直し）

（令和4年度～令和8年度）

【概要版】

令和4年3月

米沢市上下水道部

米沢市新水道事業ビジョン（中間見直し）にあたって

- ▶ 本ビジョンは、本市水道事業が進むべき方向として、10年間の事業運営の基本的な方針を示すものとして、平成28年度に策定されました。
- ▶ 計画策定から5年が経過するなかで、人口減少や度重なる自然災害等、本市水道事業を取り巻く環境は大きく変化しています。
- ▶ そこで、今年度が中間年度にあたることから、本ビジョンに掲載された各施策の進捗評価を行い、これまでの実施状況と今後の事業計画を示すなど、本ビジョンの一部見直しを行うこととしました。

新水道事業ビジョンと関連計画の計画期間

計画	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
上位計画												
まちづくり総合計画 基本構想		H28年度 ~ R7年度										
まちづくり総合計画 基本計画		前期基本計画（H28年度~R2年度）					後期基本計画（R3年度~7年度）					
公共施設等総合管理計画		H28年度 ~ R17年度										
水道事業関連計画												
新水道事業ビジョン			H29年度~(R8年度)					▷ 中間見直し（R4年度~8年度）				
水道事業中期経営計画			第4期計画（H29年度~R3年度）				第5期計画（R4年度~8年度）					
アセットマネジメント						R2年度 ~ R101年度 (財政収支見直しはR2年度~R41年度)						

水道事業の現状と課題

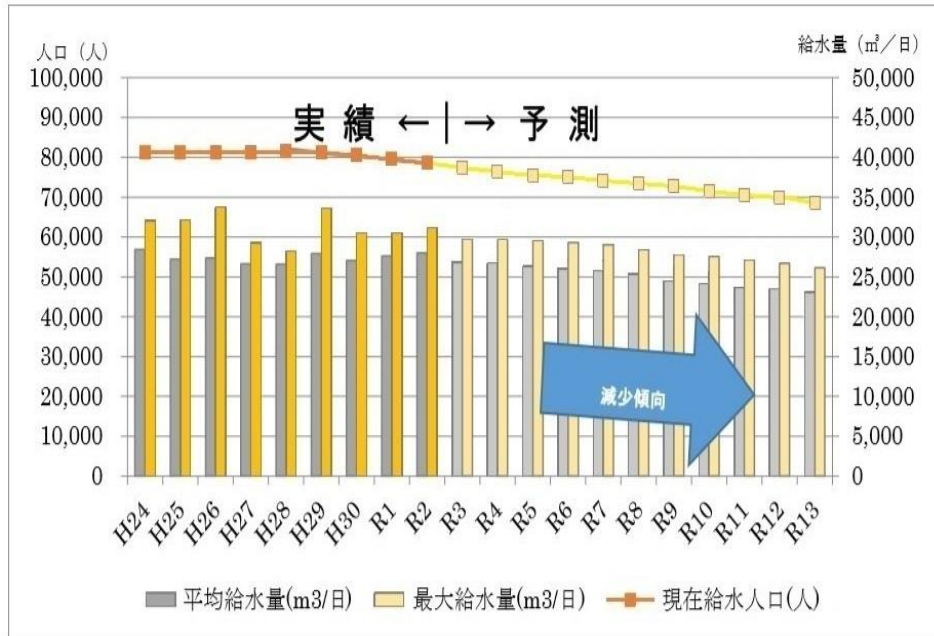
安心・安全な水道水の安定供給や健全経営を維持するためには、今後直面する次の課題と向き合い、中長期的な目標のもと、事業運営を行う必要があります。

① 水需要の動向

本市の給水人口並びに給水量は横ばい傾向にあります。しかし、今後は人口減少の加速や節水機器の普及により、減少することが見込まれます。

また、水道料金収入も減少し、経営環境は厳しさを増すことが予想されます。

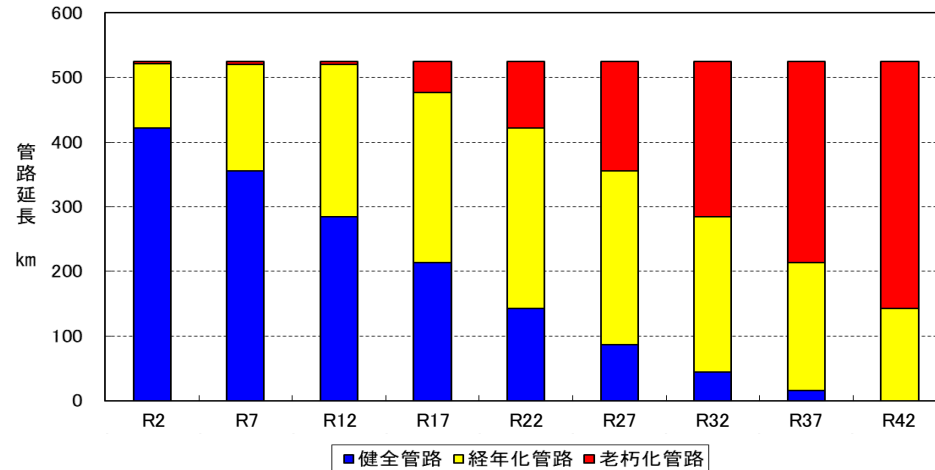
給水量及び人口予測



② 水道施設の老朽化

高度経済成長期に整備した水道施設の老朽化が進み、事故や漏水のリスクが高まることが予想されます。それを防ぐためにも、今後は、長寿命化を図りながら、計画的な更新を行う必要があります。しかし、多額の更新費用がかかることから、今後は料金改定（値上げ）による財源の確保も検討しなければなりません。

更新を行わなかった場合の健全度(管路)









仮に、更新を行わない場合、20年後には経年化管路と老朽化管路が全体の72.8%まで増加します。

水道事業の基本理念とめざす方向性



基本理念 「信頼を未来につなぐ米沢の水道」

めざす方向性		基本施策	中間評価	関連するSDGs
安全	安全でおいしい水道水の供給をめざして	①水質管理体制の強化	A	 
		②良質な水の追求	B	
		③非常用水源（地下水）の保全	A	
強靱	強靱で安心できる水道をめざして	④管路の耐震化	A	 
		⑤水道施設の計画的更新	B	
		⑥応急体制の強化	A	
持続	健全な水道経営をめざして	⑦施設規模の適正化	B	 
		⑧事業経営の効率化	A	
		⑨職員研修の充実	A	
		⑩水道料金の適正化	A	
		⑪料金収納率の向上	A	
		⑫お客さまサービスの充実	B	
		⑬水資源の有効利用	B	
		⑭環境対策の推進	A	

中間評価は、事業の進捗に応じて、A（良好）・B（普通）・C（要改善）・D（再検討）とし、評価内容に応じて事業の見直しを行いました。

「信頼を未来につなぐ米沢の水道」の実現に向けた 具体的な取組み



米沢市水道事業マスコット「ウォーキー」

安 全	安全でおいしい水道 水の供給をめざして
-----	------------------------

① 水質管理体制の強化

水源上流域等のパトロールや検査の実施など水質監視体制の強化を図ります。また、水安全計画の運用に基づく水質管理体制の整備を行います。

② 良質な水の追求

鉛製給水管交換を実施し、水質向上を図ります。また、浄水施設更新時には水質向上を図り、「安全で良質な水」の供給を行います。さらに、貯水槽水道の適正な管理について、指導・助言を行います。

③ 非常用水源（地下水）の保全

災害や渇水時の貴重な水源であることから、定期的に水質検査や点検・整備を実施します。

（主な取組）

- ・ 水安全計画の運用
- ・ 水質検査計画の策定・公表

- ・ 鉛製給水管交換
- ・ 貯水槽水道設置者への指導・助言

- ・ 非常用水源の点検・整備

強 靱

強靱で安心できる
水道をめざして

④ 管路の耐震化

避難所・病院等の施設へ供給する重要管路の順次耐震化を図ります。また、同時に基幹管路の耐震化を図ります。

⑤ 水道施設の計画的更新

老朽化により更新が必要な水道施設について、アセットマネジメントによる計画的な更新を図ります。

⑥ 応急体制の強化

応急給水や復旧体制の強化を図り、管路の耐震化などの予防措置と併せて危機管理の充実に努めます。

(主な取組)

- ・ 重要管路の耐震化
- ・ 基幹管路の耐震化
- ・ アセットマネジメントに基づく計画的な施設の更新
- ・ 水道施設の耐震性評価・耐震化計画の策定
- ・ 舘山配水池の更新
- ・ 白布浄水場の整備方法の検討
- ・ 板谷浄水場の整備方法の検討
- ・ 各種マニュアルの整備（見直し）
- ・ マニュアルに沿った訓練の実施

応急給水訓練の様子



⑦ 施設規模の適正化

水需要予測を踏まえ、老朽化が進む館山浄水場を廃止し、笹野浄水場からの受水設備を整備します。また、配水計画を随時見直します。

⑧ 事業経営の効率化

民間委託の更なる推進、簡易水道事業の見直し、県と連携した水道事業の発展的広域化の検討等を実施し、経営基盤の強化を図ります。

⑨ 職員研修の充実

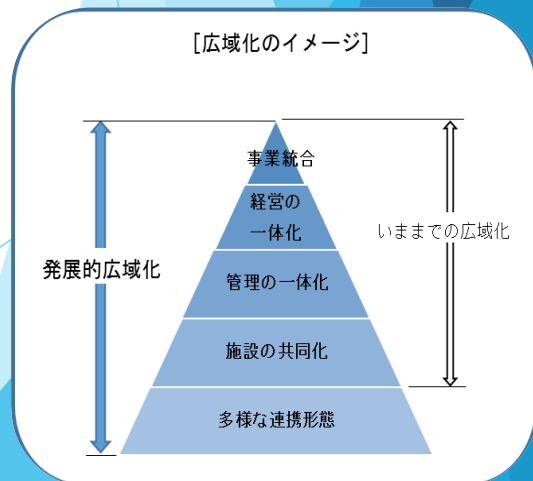
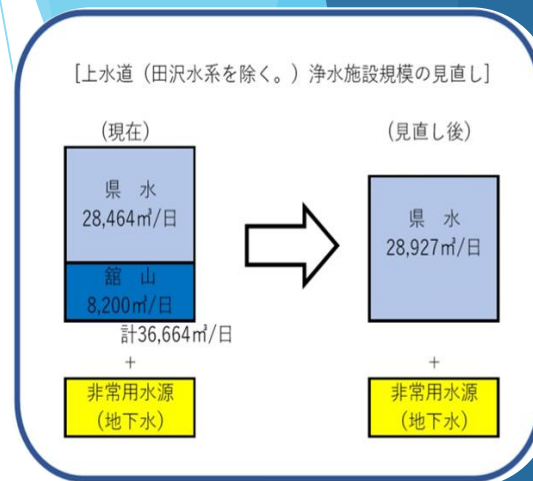
専門的知識や技術の習得のため、各種研修会に積極的に参加し、職員の技術力向上を図ります。

⑩ 水道料金の適正化

令和5年度に現在の料金算定期間が終了することから、新たな料金算定期間を設定し、事業運営に見合った料金を算定します。

(主な取組)

- ・ 配水計画の随時（適時）見直し
- ・ 館山配水区受水施設整備
- ・ 民間委託の推進
- ・ 簡易水道事業経営のあり方の検討
- ・ 置賜圏域における広域化の調査・検討
- ・ 各種研修への参加
- ・ 適正な水道料金の算定
- ・ 料金体系の検討



⑪ 料金収納率の向上

今後も経営の安定化やお客さまへの公平性を保つ観点から、債権管理を適切に行い、収納率の向上に努めます。

⑫ お客さまサービスの充実

インターネットによる各種手続き方法の拡大を検討し、サービス向上を図ります。また、水道事業について、各種媒体を活用して積極的な情報提供を行うなど、広報活動の強化を図ります。さらに、本市指定給水装置工事事業者に対し、スムーズな手続きや工事ができるよう、適宜研修を実施します。

⑬ 水資源の有効利用

配水管、給水管の漏水等の無駄な水を減らすため、計画的な漏水調査及び迅速な修繕を行い、漏水量の削減を図ります。

⑭ 環境対策の推進

浄水発生土及び建設発生土の有効利用を図るため、そのリサイクルに取り組みます。また、事務用品における再生品の使用等、職員の意識向上を図ります。

(主な取組)

- ・ 債権管理の強化
- ・ インターネットによる各種手続きの導入等利便性の向上
- ・ 広報・ホームページ・SNS等による情報提供
- ・ よねざわ上下水道だよりの発行
- ・ インターネット上へのPR映像の掲載
- ・ 漏水調査の実施
- ・ 漏水修繕の実施
- ・ 浄水発生土有効利用
- ・ 建設発生土のリサイクル
- ・ 省エネ行動の実践



よねざわ上下水道だより
(第6号 R3. 9. 1発行)

管理指標 (KPI)

項 目			現状 (R2)	目標	
めざす方向性	基本施策	指標項目		R5	R8
安 全	②良質な水の追求	鉛製給水管率	5.3%	3.7%	2.0%
強 靱	④管路の耐震化	重要管路の耐震化率	38.8%	53.8%	70.1%
		基幹管路の耐震化率	19.3%	29.7%	40.4%
	⑤水道施設の計画的更新	配水池耐震施設率	73.2%	73.2%	95.4%
		管路更新率	0.41%	0.75%	1.00%
	⑥応急体制の強化	想定訓練の実施(年3回以上)	実施	実施	実施
健 全	⑦施設規模の適正化	舘山配水区受水施設整備	継続	令和7年度供用開始	
	⑧事業経営の効率化	総収支比率	106.11%	113.58%	85.11%※
	⑪料金収納率の向上	収納率	94.13%	94.62%	94.68%
	⑫お客さまサービスの充実	インターネット上へのPR映像の掲載	未実施	2件	5件
		よねざわ上下水道だよりの発行(年2回)	実施	実施	実施
⑬水資源の有効利用	有収率	81.44%	83.49%	85.53%	

※令和8年度は、舘山浄水場除却により一時的に支出が増大するため総収支比率は低くなります。

財政収支の見通し

1. 主な施設整備計画

○ 館山配水区受水施設整備事業 (R3~R7)

館山浄水場を廃止し、県笹野浄水場から館山配水区への受水施設整備等を行います。

今後5年間の事業費の見込み

約11.7億円

○ 重要施設耐震化事業 (~R8)

災害時の避難施設・病院等への管路及び配水池等施設の耐震化を図ります。

今後5年間の事業費の見込み

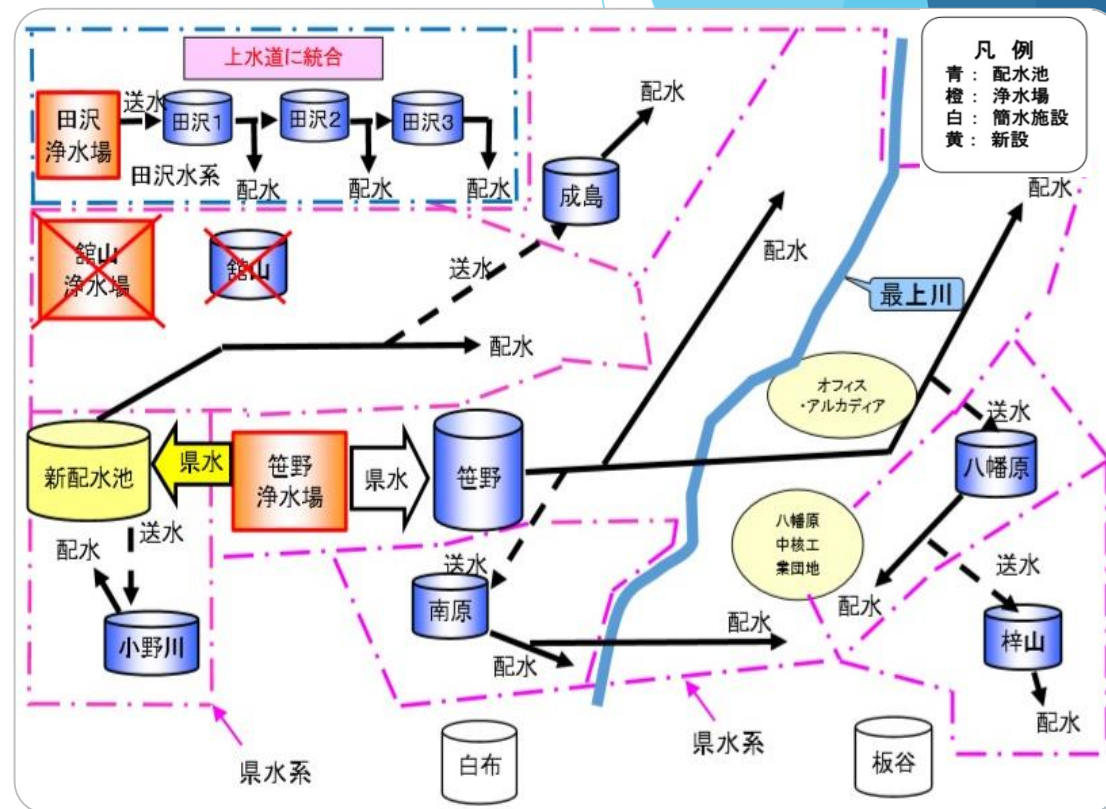
約13.0億円

○ その他施設・設備に係る事業 (~R8)

管路の布設(替)工事や施設の計器等更新等を行います。

今後5年間の事業費の見込み

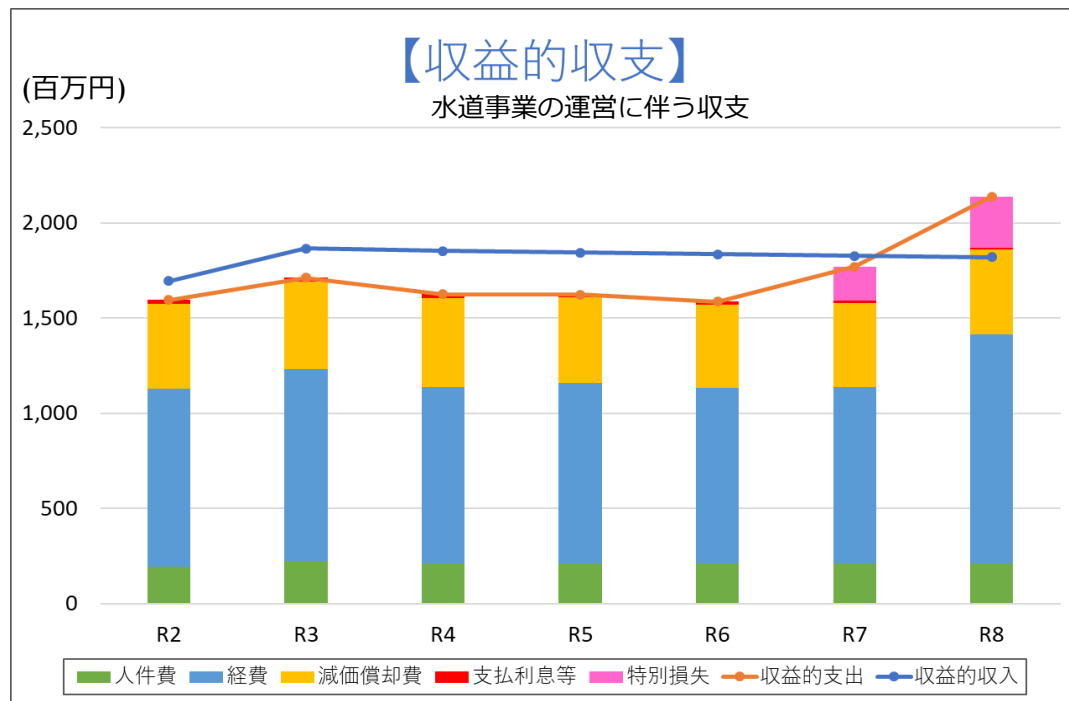
約11.1億円



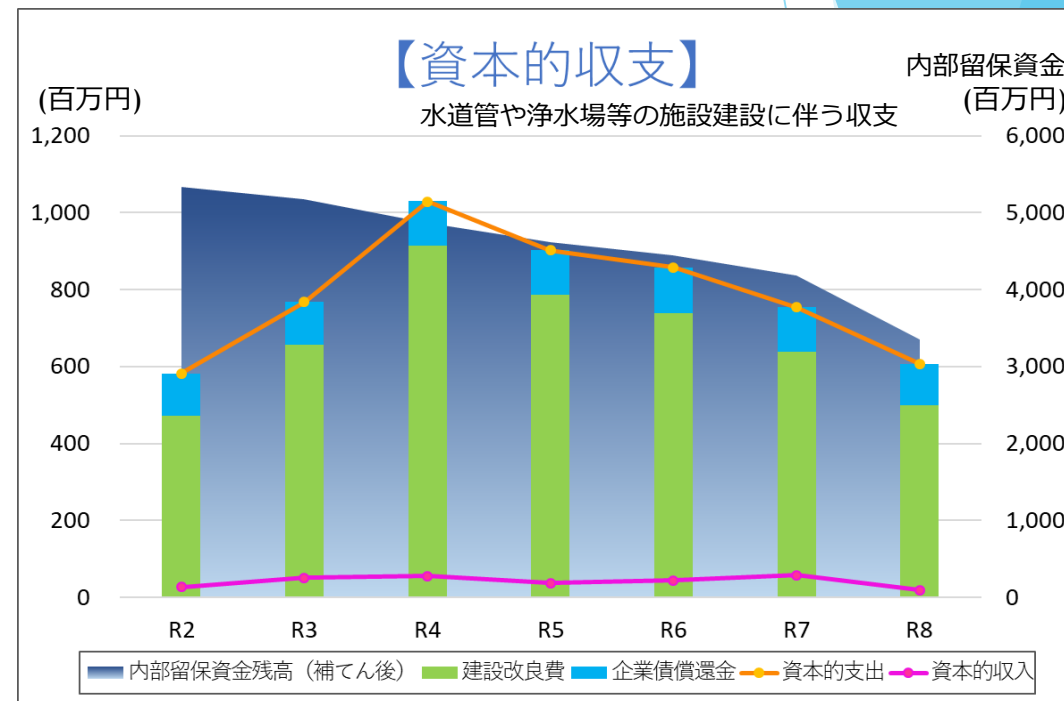
水道施設の状況(R8館山配水区整備後)

2. 財政収支の見通し

収入については、水需要の減少にともない料金収入も減少傾向となる見込みです。また、支出については、館山配水区受水施設整備事業等の重要事業に本格着手することから、増大し、内部留保資金残高は減少となる見込みです。



令和8年度は、館山浄水場の解体費が発生することから、一時的に赤字となる見込みです。



3. 財政収支の課題（将来にわたり健全な事業経営を維持するために）

中長期的な視点に立った事業費の平準化や施設規模の適正化などを行い、効率的な事業運営により費用の削減を図っていきます。また、財政収支見通しの見直しを定期的に行い、適正な料金設定（値上げ）も検討していく必要があります。